

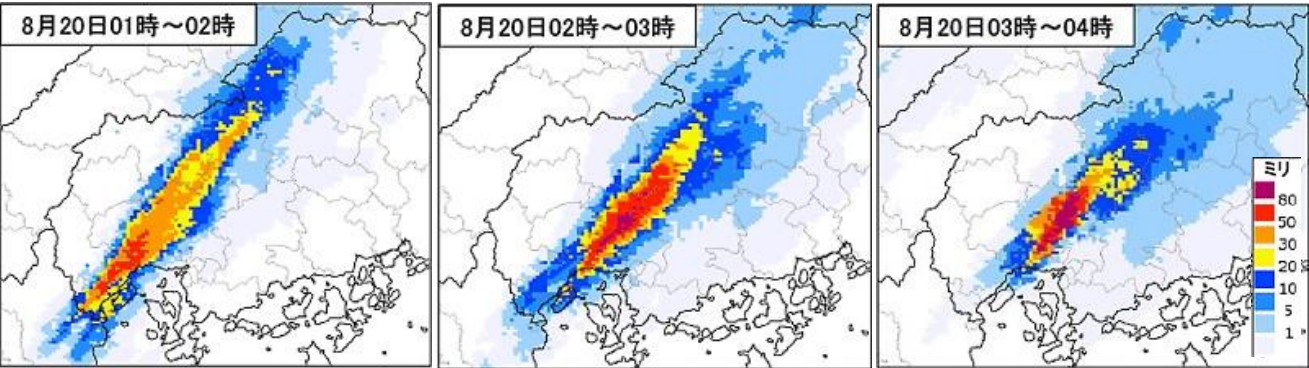
平成 26 年 8 月豪雨（広島土砂災害）

【平成 26 (2014) 年 8 月 19 日～20 日】

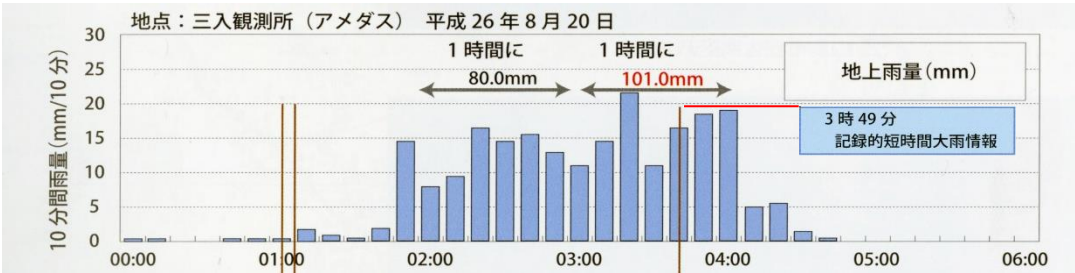
■気象の概要

日本海に停滞する前線に向かい、南から暖かく湿った空気が流れ込み、広島県では大気の状態が非常に不安定となり、19 日夜から 20 日明け方にかけて広島市を中心に猛烈な雨となりました。広島市安佐北区三入において最大 1 時間降水量 101mm、最大 3 時間降水量 217.5mm、最大 24 時間降水量 257mm となり、いずれも観測史上 1 位の値を更新しました。この豪雨で、数時間にわたってほぼ同じ場所にとどまる線状の強雨域を示す「線状降水帯」の用語が広く一般にも知られるようになりました。その形成原因の一つとして、暖かく湿った空気が流入し続け、同じ場所で積乱雲が繰り返し発生する「バックビルディング現象」が考えられています。

気象庁は、この災害を含め全国で大きな被害をもたらした 7 月 30 日から 8 月 26 日にかけての一連の大雨を「平成 26 年 8 月豪雨」と命名しました。



気象庁解析雨量により現れた線状降水帯の強雨域



三入観測所 10 分間雨量（アメダス、平成 26 年 8 月 20 日）

■被害の状況

局所的豪雨のため、被害は広島市西区、安佐南区、安佐北区にかけての土石流、がけ崩れが発生した幅約 3km、長さ約 20km の帯状の範囲に集中しています。死者は災害関連死の 3 人を除く 74 人が土砂災害によるものです。これは中国地方の土砂災害による人的被害としては過去 30 年で最多、昭和 58 年 7 月豪雨により島根県西部で死者・行方不明 87 人を出して以来の人的被害となりました。洪水による被害は多くありませんでしたが、土砂災害が原因で小河川や用水路が閉塞され、浸水が発生するケースがありました。

この災害では広島市に災害救助法が適用され、「土砂災害防止法」改正のきっかけとなりました。

■広島県の被害状況

区分	人的被害		住家被害			
	死者	負傷者	全壊	半壊	一部損壊	浸水
広島市安佐南区	70	54	145	122	106	3,074
広島市安佐北区	7	15	33	95	73	1,070
広島市その他の区	0	0	1	0	10	20
広島市以外の県内	0	0	0	0	1	19
計	※77	69	179	217	190	4,183

※災害関連死3人含む

■土砂災害の発生状況

区分	土石流	がけ崩れ	計
広島市安佐南区	39	20	59
広島市安佐北区	67	36	103
広島市その他の区	1	3	4
計	107	59	166

※発生件数は、土砂災害危険箇所ですら土砂災害が発生した箇所、及び土砂災害危険箇所以外で土砂災害により人家等に被害が発生した件数（広島県土木局砂防課調べ）



山麓の住宅地を襲った土石流（広島市安佐南区八木地区、平成 26 年 8 月 20 日）

【国土地理院撮影】



広島市安佐北区可部東地区の土砂災害【国土地理院撮影】



国道 54 号を埋めつくす土砂（広島市安佐北区大林）

災害の記憶を伝える

大きな被害を受けた安佐南区や安佐北区では、犠牲者の慰霊や後世への伝承のため、7 箇所にて碑が建てられています。

※碑の写真をクリックすると位置が表示されます



土砂災害記念碑（広島市安佐南区緑井 7 丁目）



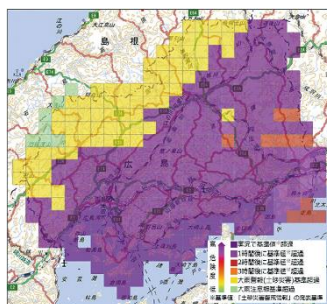
広島土砂災害 忘れまい 8.20（広島市安佐南区八木 3 丁目）



広島豪雨災害記念碑（広島市安佐北区可部東 6 丁目）

災害のない明日を目指して

砂防堰堤の建設などのハード対策とともに、土砂災害防止法の改正を受け、土砂災害の危険をいち早く人々に伝える情報提供などのソフト対策も進められています。



テレビのデータ放送による土砂災害危険度情報の提供



砂防堰堤の建設